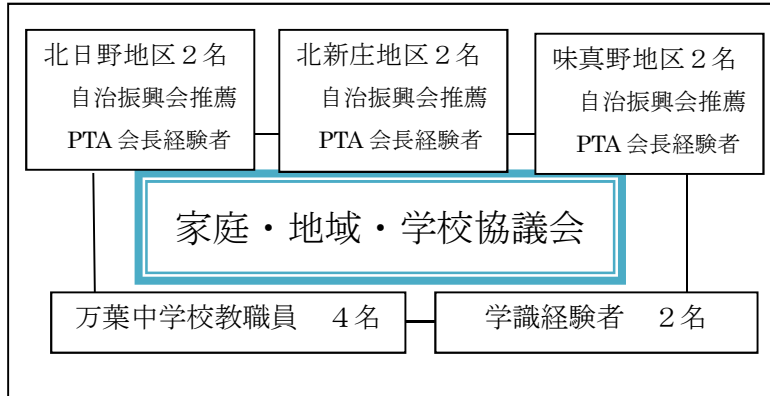


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- 第1回（6月18日）
教育方針・教育課題について
- 第2回（10月30日）
生徒の現状について
スクールランチ試食
- 第3回（2月27日）
学校評価の検討
次年度の課題

※地域コーディネーター（3名）

北日野地区区長会長 元PTA会長(北新庄地区) 元PTA会長(味真野地区)

(3) 協議会における成果と課題

第1回目の協議会において、昨年の学校評価の結果から、ホームページの活用についての意見をいただいた。更新頻度と写真掲載の有無で閲覧数が増加するので、昨年度以上の取り組みをすることとした。ほとんどの月で、一昨年、昨年と比べて閲覧数は増加しており、今年度の学校評価の結果からも、保護者の学校への関心の度合いが増加した。

また、地域との関わり方について、3地区の交流や新幹線南越駅開業に向けてどのように中学生の意見を反映できるかが課題として挙げられた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

「地域行事に参画し、将来に渡り地域の一員として活躍する生徒の育成」をねらいとし、地区の大きな祭である「万葉まつり」に参加し、自分たちが作った赤米を販売する店を出すことで祭りを盛り上げるとともに、自校のPR活動を行うこととした。

また、地域の産業や伝統・文化、名所・旧跡等を調べたり、自分たちが利用している公民館等のボランティア清掃を行ったりすることで郷土を愛する心を育ませることとした。

(2) 活動の実際

①赤米作り体験と地域での販売

万葉集が作られた奈良時代に食されていたとされる古代米の「赤米づくり」は、開校2年目より続いている活動で、3年生全員で田植えと稲刈りを体験している。ここで収穫した赤米を、生徒会が中心となり全校生徒からボランティアを募り、5月のゴールデンウィークに行われる「あ



じまの万葉まつり」で販売した。生徒たちが考えた柄の法被を着用し、お客様に笑顔で対応していた。また、自作のキャッチフレーズを呼び込みをしたり、試食用の赤米ご飯を会場中を配り歩いたりして、祭りの雰囲気より活気のあるものにしていった。

②公民館清掃ボランティア

生徒会が全校にボランティアを募り、年末の各地区公民館の清掃ボランティアに参加をしている。小学校の時ほどは公民館に足を運ぶ機会が減っているものの、生徒の中には「お世話になっている公民館」という意識があり、それぞれ10～20名の参加があった。大人に混じって一生懸命に掃除をする姿は地域の一員として年齢を感じさせないものであった。



③地域調べ

1年生は総合的な学習の時間に「地域調べ」を行った。歴史的建造物・自然・特産品・産業の4つのジャンルから選んだテーマに沿って、インターネットや文献での調査をしたり、企業や関係者を訪問しインタビュー調査をしたりした。その後、調べた結果をパンフレットなどの形式にまとめ、グループごとに発表会を行った。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

あじまの万葉まつりへの出店や赤米販売に関するサポート
公民館清掃に関する連絡調整
地域調べ発表会にアドバイザーとして参加

(4) 特に工夫した事項

「北陸新幹線開通に向けて、観光客を呼び込むために企画を考え、提案をする。」という目的のもと、地域調べを行った。発表会には、地域コーディネーターを始め、地区公民館や市役所関係者をアドバイザーとして参加を依頼し、提案内容に対して意見をいただくことができた。



(5) 成果と課題

万葉まつりの赤米販売のボランティアは年々参加者が増加しており、今年度は述べ56名が参加した。まつりの実行委員会の方も中学生の参加に大きな期待を寄せており、ブーススペースの提供や電源確保、参加賞の提供等、積極的に協力をしていただいた。生徒たちも、大人に混じって活動することで、地域の一員としての自覚が芽生え、地域への愛着がより強くなった。

地域調べでは、新幹線開業というビッグイベントを、地域の魅力発見に上手く関連付けることができた。

今後は、地域調べで掘り起こした各地区の魅力を視野に入れ、校区内の3地区それぞれに生徒がどのように関わっていけるかを考えていきたい。